

資料配布場所

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会

平成26年6月3日
国土交通省
国土技術政策総合研究所

土砂災害防止月間特別企画！ 「流木災害の発生メカニズムに迫る」土石流実験公開のお知らせ

6月は土砂災害防止月間です。国総研では、未解明の部分が残る土石流に伴う流木の氾濫について、土石流に含まれる土砂の粒径が流木の氾濫範囲に与える影響が分かる実験を、国民の皆様の一層の理解を目的として、報道関係者の方々に公開します。

実験は、谷に見立てた水路で流木を伴う土石流を発生させ、住宅が広がる扇状地に見立てた平面に達した場合の、流木の氾濫範囲の広がり进行を明らかにします。国総研は、今回得られた知見を含め、今後、土石流に伴う流木の氾濫範囲の予測手法の向上など土砂災害被害の軽減に役立つ研究等を進めて参ります。

近年も、深刻な土砂災害が相次いで発生しています。特に土石流に伴って流木が氾濫する場合、流木による破壊力は大きいえ河道を閉塞させるなどして被害を拡大することが多く、土砂災害を防止・軽減するうえでの課題のひとつとなっています。

流木の氾濫実験はこれまでも実施されてきましたが、土石流に伴う流木の詳細な挙動は未解明な分野です。このため、国総研は、土石流に伴う流木の氾濫範囲の広がり等に関する研究を進め、土石流被害の軽減に貢献して参ります。

1. 公開する土石流の実験内容

実験は、土石流に伴う流木の氾濫範囲の広がりが土石流に含まれる土砂の粒径の違いによってどのように影響を受けるか明らかにします。

- ケース① 石や礫を多く含み、流木を含んだ土石流
- ケース② 火山灰のような細かい土砂を多く含み、流木を含んだ土石流

2. 実験実施日時・場所は以下のとおり

日時：平成26年6月9日(月) 13:30～15:00 (荒天の場合6月10日(火)同時刻に順延)

場所：株式会社建設技術研究所*内実験施設 (つくば市鬼ヶ窪 1047-27 Tel029-847-0234)

※業務委託により、実験に協力していただいております。

公開実験の取材を希望される報道機関の方は、事前に下記までご連絡下さい(当日受付も可能です)

本件に関する問い合わせ先

国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室

室長 蒲原潤一(内線 3921)、主任研究官 内田太郎(内線 3924)

代表 029-864-2211、直通 029-864-4372、FAX 029-864-0903

実験の概要

1. 土石流発生模型施設の概要

- ・谷に見立てた水路(写真1)

幅 0.1m、高さ 0.29m、長さ 5mの直線水路

- ・住宅地が広がる扇状地に見立てた平面(写真2)

扇形の模型で、勾配は上流から下流に向かって 12° 、 9° 、 6° 、 3° 、 1° に変化し、外側に広がる形をしています。



写真1 谷に見立てた水路

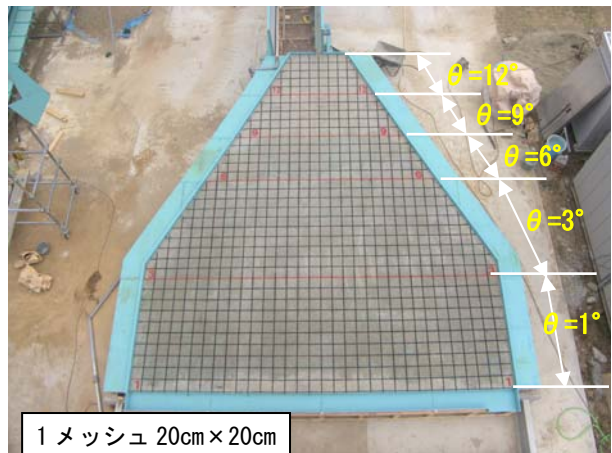


写真2 住宅地が広がる扇状地に見立てた平面

2. 主な実施手順

- ①谷に見立てた水路に厚さ 20cmの土砂を敷き詰め(現地換算で $10,000\text{m}^3$)、流木の模型(直径 6mm、長さ 8.4cm の棒)を土砂に埋め込みます。
- ②貯水槽から水中ポンプと送水管で水を汲み上げ、谷に見立てた水路の上流から水を流し込みます(水の量は、現地換算で $53\text{m}^3/\text{sec}$)。
- ③住宅地が広がる扇状地に見立てた平面に流れ込んだ土石流と流木の氾濫範囲の広がりを計測します。



3. 実験実施日時・場所は以下のとおり

日時:平成 26 年 6 月 9 日(月)13:30~15:00

場所:株式会社建設技術研究所内実験施設(つくば市鬼ヶ窪 1047-27 Tel029-847-0234)

※当日、本館1階ロビーで入館証と場内案内地図をお渡ししますので、1階ロビーで受付をお願いします。

